

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 16 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25300054

研究課題名(和文) 東南アジア・オセアニア地域における呪術と科学の相互関係に関する文化人類学的研究

研究課題名(英文) Cultural anthropological study of the relationship between magic and science in South-east Asia and Oceania

研究代表者

白川 千尋 (Shirakawa, Chihiro)

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：60319994

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ヴァヌアツ、フィリピン、タイ、ミャンマーを研究対象地域として、これらの地域の人々が呪術と科学をいかなる関係のもとに位置づけているのかを明らかにしようとした。その結果、呪術と科学は、「呪術＝非科学」といった形で単純に相反する関係にあるものとして捉えられているわけでは必ずしもないこと、むしろ重なる部分をもつものとして存在していると捉え得る場合もあることなどが明らかになった。また、当事者の人々が呪術をリアリティのあるものとして受容してゆくプロセスにおいては、とりわけ感覚とマテリアリティ(物質性)が重要な役割を果たしていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The research explored the relationship of magic and science among the people of Myanmar, Thailand, the Philippines, and Vanuatu. According to the research results, magic and science were not merely opposing to or conflicting with each other, but sometimes overlapping or being connected. It was also clarified that the senses and materiality were playing vital role when the people of research areas accepted the reality of magic.

研究分野：文化人類学

キーワード：呪術 科学 東南アジア オセアニア 文化人類学

1. 研究開始当初の背景

本研究の主題は呪術 (magic) と科学 (science) の相互関係である。したがって、本研究との関連で無視し得ない先行研究に呪術をめぐる文化人類学的研究があるのは言うまでもないが、ほかの分野、たとえば宗教学・宗教史や科学哲学などの分野にも示唆的な研究の蓄積がある。

(1) 文化人類学

文化人類学の分野では、1990年代後半から現在に至るまで、H. ムーアとT. サンダーズによる論集 *Magical Interpretations and Material Realities* (Routledge, 2001年) のように、アフリカを主たる舞台として呪術とモダニティの関係に焦点を当てた研究が活発に行われてきた。しかし、モダニティとの関連で取り上げられてきたのはグローバル資本主義、ネオリベラリズム、国民国家をめぐる動向などであり、モダニティとの関わりが深い科学に目が向けられることは少なかった。必然的に呪術と科学の関連に関する検討もほとんど行われてこなかった。また、人々の間で呪術的事象がリアリティのあるものとして受容されてゆく微視的なプロセスについても、十分に検討の対象とされてはこなかった。本研究は、近年の文化人類学的呪術研究で取り上げられることの少なかった以上の諸課題に本格的に取り組もうとしたものである。加えて、アフリカとは異なる東南アジアやオセアニアを研究対象地域とすることで、アフリカを舞台に蓄積されてきた従来の学術的知見を相対化することも念頭に置いていた。

(2) 宗教学・宗教史

宗教学・宗教史の分野では、とりわけ日本を対象とした一連の研究のなかに本研究との関連でみるべきものがある。なかでも、呪術と科学の交錯する地点に立ち現れる疑似科学やオカルト科学を対象とした一柳廣孝の『<こっくりさん>と<千里眼>』(講談社、1994年)や、『催眠術の日本近代』(青弓社、1997年)などの研究は、本研究にとって比較検討の対象となり得る事例を取り上げている点で示唆に富む。ただしその反面、それら疑似科学などに関わる超自然的・オカルト的事象の個別具体的な受容プロセスについては、必ずしも掘り下げて明らかにされてはいない。本研究はこの点に関する解明作業を、上の一連の研究で対象とされていない東南アジアやオセアニアを対象として行おうとした点で、ユニークなものと位置づけることができる。

(3) 科学哲学

科学哲学の分野では、K. ポパー以降、この分野の主要な研究テーマの一つになってきた科学と疑似科学の差異の問題 (demarcation problem) を論じた研究を見

落とすことができない。とくに近年では伊勢田哲治の『疑似科学と科学の哲学』(名古屋大学出版会、2003年)をはじめとして、理論的に深化した研究が内外でおおやけにされており、呪術と科学の関係を捉えるための理論的枠組を準備するうえで重要な手がかりを与えてくれる。しかし、これらの研究における議論は、往々にして個別具体的な社会的コンテクストから離れた一般論的・抽象的な次元で展開されており、特定の地域の人々を対象とし、彼ら彼女らの間における呪術的事象の受容プロセスに焦点を当てることで、個別具体的な次元から呪術と科学の関係を明らかにしようとした本研究とは着目する次元が異なっている。

2. 研究の目的

東南アジアやオセアニアの人々は呪術と科学をいかなる関係のもとに位置づけているのか。この問いに対する答えを探ることが本研究の目的であった。ただし、呪術と科学の関係をめぐる人々の認識は帰属する集団や個人などに応じて多様であり、同じ個人においてさえ状況によって異なる場合が想定される。このため、上の問いに一般論的・抽象的な次元で答えを提示しようとするのは適切ではない。そこで本研究では、人々が呪術的事象(ないしは超自然的・オカルト的事象)をリアリティのあるものとして受容してゆく(あるいは受容しない)個々の具体的なプロセスに着目し、それを実証的に解明しながら、このプロセスに科学的な知識や実践がいかなる形で関与しているのかを明らかにしようとした。こうした作業を通じて、個別具体的な次元から上述の問いに迫ることを試みた。

3. 研究の方法

(1) 海外調査

本研究のメンバーは、研究代表者の白川千尋と、研究分担者の飯國有佳子、飯田淳子、川田牧人、津村文彦の計5名である。メンバーは3年間(平成25~27年度)の研究期間中に、各自の研究対象地域で本研究の目的を達成するために不可欠な情報の収集を行った。各メンバーの研究対象地域は、ヴァヌアツのポートヴィラ(白川)、フィリピンのピサヤ地方(川田)、タイのコンケン県(津村)とチェンマイ県(飯田)、ミャンマーのヤンゴンとマンダレーおよびその周辺(飯國)である。

各メンバーはこれらの地域で調査を行う際に、主に次に挙げるような呪術的事象の事例を具体的な対象とした。すなわち、意図する相手に厄災をもたらす邪術(白川)、精霊観に基づく認識と語り(川田)、超自然的手法を用いたマッサージをはじめとする身体的実践(飯田)、ヘビ毒咬傷や帯状疱疹などに対する治療実践(飯田、津村)、霊媒や超能力者による治療実践(飯國)である。そし

て、当事者の人々がこれらの事象をリアリティのあるものとして受容してゆく（あるいは受容しない）微視的プロセスを実証的に解明しようとした。その際にはとくに、「言語による理解」と「感覚や行為による受容」の相互関係、プロセスの進行する場・空間とそこで使われる物・物質の果たす役割、当事者間に一定の認識が共有されてゆく社会的過程とそこにおける各当事者の果たす役割の3点に注目するとともに、上述のプロセスに科学的知識や実践がいかなる形で関与したり、参照・動員されたりしているのかを把握しようとした。

(2) 研究会

各メンバーが海外調査で得た情報やその中間的分析・検討結果は、メンバー全員が参加した研究会において個々のメンバーの研究発表としておおよかにされ、討論の対象となった。この発表と討論を通じて、メンバー間での情報共有がなされるとともに、各自の知見の共通点や相違点などが明らかになった。なお、研究会は研究期間中に計5回実施した（初年度2回、次年度1回、最終年度2回）。

4. 研究成果

(1) 重なり合う呪術と科学

呪術と科学の相互関係について考えるうえで無視できないのが、前者を後者の否定形、すなわち迷信のような非科学的存在と位置づけ、両者を相反する関係にあるものとして捉える見方である。この一般にも広く流布した見方によれば、呪術は科学の発展とともに廃れてゆくものとみなされる。しかしながら、本研究の結果、少なくとも研究対象地域の人々の間では、以上のような見方にそぐわない事態がみられることがわかった。

そうした事態の一つに、当事者の人々の間で呪術のリアリティや実在性などが説明される際、裏付けとして科学が参照・動員されるということがある。たとえば科学的視点を称揚する一部のキリスト教派の信徒や教育エリートの間には、「邪術によって引き起こされた病気の発症過程は科学的な観点からも説明され得る、ゆえに邪術は実在する」という認識がみられる（ヴァヌアツの例など）。また、近代医療の従事者や伝統医療の治療者などのなかには、治療をはじめとしたさまざまな呪術的実践の効果や呪術的現象のリアリティを、科学的観点から根拠付けようとする者も珍しくない（タイ、ミャンマーの例など）。以上の一連の例では、呪術と科学は単純に相反するものと位置づけられているわけではない。当事者の視点からはやや離れてしまうが、強いて言えば両者は重なる部分をもつものとして存在しているとも言える。

このように重なる部分をもつがゆえに、呪術的事象が科学的観点から説明されたり、根拠付けられたりして科学的事象へと読み替

えられてゆく（呪術的色彩を脱色されてゆく）とともに、呪術の領域は縮小してゆくものと想定することができるかもしれない。実際、本研究の対象地域でもそれに類似した例が認められた。しかしその一方で、たとえばヴァヌアツの場合のように、呪術的事象が科学的事象へと読み替えられることなく、それとして捉えられ続けているという例もみられたことはきわめて興味深い。

(2) 科学を超越した存在としての呪術

他方で、本研究のほとんどの対象地域では、呪術を科学と重なる部分をもつものとして捉える見方だけでなく、科学を超越した存在として位置づける見方もみだすことができた。この見方は、呪術を科学にあらざるものとみなしている点で、4.(1)の冒頭で触れた呪術を非科学的存在と捉える見方に一脈通じることもある。しかし、呪術を迷信のようなものとして否定的・消極的に捉えるのではなく、ある種の神秘性や超自然性、宗教性を帯びたものとして肯定的・積極的に位置づけようとしている点で、そうした見方とは質を異にしている。

また、科学を超越した存在として呪術を捉える見方においては、科学には一定の限界があるとされ、ゆえに呪術はそれによっては解明し尽くすことのできないものとみなされている。このため、前出の「呪術=非科学的存在」という見方の場合のように、呪術は科学の発展とともに廃れてゆくものとは認識されていない。この点も、科学に対する呪術の超越性を強調する見方の特徴と言える。

(3) 感覚、マテリアリティ

それでは、以上のように科学を超越したものとして呪術を捉える見方が形づくられるに至った基盤には、何があるのだろうか。本研究を通じて確認することができたのは、感覚とマテリアリティ（物質性）の重要性である。

当事者の人々が呪術のリアリティを受容してゆくプロセスにおいては、たとえば「そんなことは通常は起きないと理解している、それでも現実に起きていると感じてしまう」という例に端的に現れているように、論理的に言語化された知的理解（科学を含む）だけでは捉え切れない種類の感覚的経験が、きわめて重要な役割を果たしている。そのことが本研究のいずれの対象地域の事例からも浮き彫りになった。なお、ここで言う感覚的経験には、視覚はもとより触覚や聴覚といったほかの感覚による経験も含まれており、それらの感覚が単独で関わっている場合も複合的に関わっている場合もある。

また、そうした感覚的経験はある種のマテリアリティに裏打ちされてもいる。たとえば霊などの超自然的存在や邪術を病因とする病気に対して呪術的治療が施される場合、往々にして病因が具体的な物質として可視

化されたり、感知されたりする。そうした物質のもつマテリアリティは、「そんなことは通常は起きないと理解している、それでも現実に起きていて感じてしまう」といった形による呪術的事象の受容プロセスにおいて、感覚的経験が構築される際に不可欠な基盤をなしている。

他方で、呪術的事象の受容プロセスとの関連で感覚的経験を理解する際には、それが複数の人々に共有されたものであることにも留意する必要がある。たとえば呪術的治療の効果は、往々にして治療者と患者の間で特定の感覚が共有されることを通じて確認されてゆく。したがって、それがリアリティのあるものとして患者に受容されるうえでは、患者単独の感覚的経験だけでは十分ではない。患者の感覚が治療者や周辺にいる人々にも同じようなものとして感知されることではじめて、治療の効果はそれとして受容されてゆくのである。

なお、こうした感覚的経験のなかには、誰もが簡単に経験できるものばかりではなく、ある種の学習のプロセスを経ないと感得できないものもある。つまり、適切な見方や感じ方を習得していないと、あるものをそれとして見たり、感知したりすることができないような種類の感覚的経験があるわけだ。呪術的事象と関連する感覚的経験のこうした側面については、目下、収集した情報の分析・検討にあたっている段階である。同じくその途上にあるほかの一連の課題と併せて、一定の見通しを得ることができ次第、本研究の成果として随時おおよげにしてゆく予定である。

(4) 成果の公開

研究期間終了直後であるため、本研究の成果公開については未だ諸についたばかりである。とは言え、成果の一部は、以下に挙げるように、すでにいくつかの場においてまとまった形でおおよげにしてきた。

京都人類学研究会シンポジウム「呪術的实践 = 知の現代的諸相 - 科学 / 医療 / 宗教 / その他の実践 = 知との並存状況から」、2014年7月12日、京都大学人文科学研究所（京都市）

日本文化人類学会中国・四国地区研究懇談会シンポジウム「かわりあう呪術と科学 - 東南アジア・オセアニア地域から」、2015年6月20日、サテライトキャンパスひろしま（広島市）

The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter Congress 2016, Panel, “Magic in Contemporary Settings of Knowledge, Practice, and the Senses: Interrelations with Science and Religion”, May 7, 2016, Hotel Duvrovnik Palace, Duvrovnik, Croatia.

以上の3件のシンポジウムや国際学会パネ

ルはいずれも本研究のメンバーが中心となって組織したものであり、にはメンバーの飯田、川田、津村の3名、には飯田、川田、白川の3名、には5人のメンバー全員が発表者として参加している。また、の3名の発表はその後論文として、学術誌『Contact Zone (コンタクト・ゾーン)』(7号、2015年)に掲載されている。

5. 主な発表論文等

{ 雑誌論文 } (計 20 件)

川田牧人、グローバルな<生>を記述することば、グローバル研究叢書 - 社会接触のグローバル研究、5:15-30、2016、査読無。

飯國有佳子、功德の還流が生み出すもの - パゴダ建立における超自然的存在と社会的紐帯、CIAS Discussion Paper、46:43-50、2015、査読無。

Iikuni, Yukako, Showing Respect and Bowing Down to Nats: Spirit Worship and Gender in a Village of Upper Burma. The Journal of Sophia Asian Studies, 32:57-77, 2015, 査読有。

飯田淳子、呪術の効果と感覚的経験 - 北タイの農村・学校・病院における語りと実践、Contact Zone (コンタクト・ゾーン)、7:192-210、2015、査読有。

川田牧人、序論：呪術的諸実践 = 知の現代的位相 - 科学 / 医療 / 宗教 / その他の実践 = 知との並存状況から、Contact Zone (コンタクト・ゾーン) 7:159-166、2015、査読有。

川田牧人、落語のようで、民族誌のようで - 夢とうつつの間のフィールドワーク考、床呂郁哉編、人はなぜフィールドワークに行くのか、東京外国語大学出版会、pp.154-171、2015、査読無。

津村文彦、注射と吹きかけ - 東北タイにおける注射医と呪医の治療効果をめぐって、Contact Zone (コンタクト・ゾーン)、7:167-191、2015、査読有。

Iikuni, Yukako, National Control and the Public Space for Spirit Worship in Burmese World. MINPAKU Anthropology Newsletter, 38:6-8, 2014, 査読無。

飯田淳子、北部タイ農村地域における医療をめぐる複ゲーム状況、杉島敬志編、複ゲーム状況の人類学 - 東南アジアにおける構想と実践、風響社、pp.91-116、2014、査読無。

Iida, Junko, The Efficacy of Thai Massage for Urban Middle Class in Contemporary Thailand: Discourse, Body Technique, and Ritualized Process. Senri Ethnological Reports, 120:121-139, 2014, 査読無。

{ 学会発表 } (計 30 件)

Iikuni, Yukako, Where Western and Indigenous Sciences Integrate: A Case Study of the Healing Practice in Myanmar. The International Union of

Anthropological and Ethnological Sciences Inter Congress 2016, May 7, 2016, Hotel Duvrovnik Palace, Duvrovnik, Croatia.

Iida, Junko, Wavering Doctors and Teachers: Narratives and Practices Concerning Magic in a Hospital and School in Northern Thailand. The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter Congress 2016, May 7, 2016, Hotel Duvrovnik Palace, Duvrovnik, Croatia.

Kawada, Makito, When Orasyones Meet Modern Literacy: Prayer in the Words and Writing of the Visayas, Philippines. The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter Congress 2016, May 7, 2016, Hotel Duvrovnik Palace, Duvrovnik, Croatia.

Shirakawa, Chihiro, "Modernists" and Magic: A Case Study from Vanuatu. The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter Congress 2016, May 7, 2016, Hotel Duvrovnik Palace, Duvrovnik, Croatia.

Tsumura, Fumihiko, Mechanism and Efficacy of Magical Treatment of Shingles in Northeastern Thailand. The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter Congress 2016, May 7, 2016, Hotel Duvrovnik Palace, Duvrovnik, Croatia.

飯田淳子, かかわりあう呪術と科学 - 趣旨説明、日本文化人類学会中国・四国地区研究懇談会シンポジウム「かかわりあう呪術と科学 - 東南アジア・オセアニア地域から」, 2015年6月20日、サテライトキャンパスひろしま(広島市)。

川田牧人, 戸惑う呪者 - 科学と呪術をめぐる信念世界の描き方、日本文化人類学会中国・四国地区研究懇談会シンポジウム「かかわりあう呪術と科学 - 東南アジア・オセアニア地域から」, 2015年6月20日、サテライトキャンパスひろしま(広島市)。

白川千尋, 交錯する邪術と科学 - ヲアヌアツの事例より、日本文化人類学会中国・四国地区研究懇談会シンポジウム「かかわりあう呪術と科学 - 東南アジア・オセアニア地域から」, 2015年6月20日、サテライトキャンパスひろしま(広島市)。

飯田淳子, 呪術と感覚的経験 - 北タイの農村・病院・学校における語りと実践から、京都人類学研究会シンポジウム「呪術的实践 = 知の現代的諸相 - 科学 / 医療 / 宗教 / その他の実践 = 知との並存状況から」, 2014年7月12日、京都大学人文科学研究所(京都市)。

津村文彦, パオで治るということ - 東北タイの呪医の治療実践の効果をめぐって、京都人類学研究会シンポジウム「呪術的实践 = 知の現代的諸相 - 科学 / 医療 / 宗教 / その他の実践 = 知との並存状況から」, 2014年7月

12日、京都大学人文科学研究所(京都市)。

〔図書〕(計4件)

白川千尋, 南太平洋の伝統医療とむきあう - マラリア対策の現場から、臨川書店、2015、213。

津村文彦, 東北タイにおける精霊と呪術師の人類学、めこん、2015、309。

Zayas, Chinthia Neri, Kawada, Makito, and de la Pena, Lilian (eds.), Visayas and Beyond: Continuing Studies on Subsistence and Belief in the Islands. Center of International Studies Publications, University of the Philippines, 2014, 153.

白川千尋, テレビが映した「異文化」 - メラネシアの人々の取り上げられ方、風響社、2014、222。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白川 千尋 (SHIRAKAWA, Chihiro)
大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号: 60319994

(2) 研究分担者

飯國 有佳子 (IHKUNI, Yukako)
大東文化大学・国際関係学部・講師
研究者番号: 90462209

飯田 淳子 (IIDA, Junko)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授
研究者番号: 00368739

川田 牧人 (KAWADA, Makito)
成城大学・文芸学部・教授
研究者番号: 30260110

津村文彦 (TSUMURA, Fumihiko)
福井県立大学・学術教養センター・准教授
研究者番号: 40363882